

学校運営計画（4月）		評価（3月）						
学校運営方針	<p>【基本方針】 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、社会の変化や生徒の実態に迅速に対応できる機動的な体制を確立し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【長期目標】 1 社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。 2 後世に優れた精神文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力を身に付けた生徒を育成する。 3 内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、主体的に行動し自らの責任を果たす生徒の育成を推進する。 4 学校行事や生徒会活動等における生徒の自治的活動をとおして、創造性及び協働性並びにリーダーシップ・フォロワーシップ及び自浄力を育成する。 5 I C T教育を有効に活用した授業を展開することにより、思考力、判断力、表現力を更に伸ばさせる。 6 前期の区切りとしての「大運動会」と後期の区切り及び学年の総仕上げとしての「大文化祭」の二大学校行事を中心とした学校暦の充実を図る。 7 生徒の現状に即した諸支援を充実させ、「人間としての在り方・生き方」を考えさせる教育を推進する。 8 地域の小学校、進学塾と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させるとともに、地域に対して本校の教育活動を理解していただく。</p>	A						
	<p>昨年度の成果と課題</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度重点目標</th> <th>具体的目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 授業等の改善・充実</td> <td>(1) 校種間の接続（中高および高大の接続）を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。 (2) 教育活動全体をとおして、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。 (3) 二学期制の特色を生かした修猷館のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。</td> </tr> <tr> <td>2 豊かな人間性と実践力の育成</td> <td>(1) 学校行事の意義について学校全体で共有することで、「世のため、人のため」という言葉に凝縮される本校の全人教育を充実させる。 (2) 命の大切さを認識させ、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させるとともに、各種調査等から生徒の実態を把握し、教育活動を充実発展させる。 (3) 授業や特別活動等における交流、言語活動の充実をとおして人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する。</td> </tr> <tr> <td>3 教師としての資質・能力の向上</td> <td>(1) 教師一人ひとりの言動が「隠れたカリキュラム」として修猷文化を醸成するという自覚を持ち、自ら進んで研究と修養に努め、教養を高める。 (2) 「語りの文化」を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め、共有化を図る。 (3) 健康の維持・増進を図り、幅広く知識と経験の習得に努め、専門性の向上を図る。</td> </tr> </tbody> </table>			年度重点目標	具体的目標	1 授業等の改善・充実	(1) 校種間の接続（中高および高大の接続）を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。 (2) 教育活動全体をとおして、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。 (3) 二学期制の特色を生かした修猷館のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。	2 豊かな人間性と実践力の育成
年度重点目標	具体的目標							
1 授業等の改善・充実	(1) 校種間の接続（中高および高大の接続）を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。 (2) 教育活動全体をとおして、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。 (3) 二学期制の特色を生かした修猷館のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。							
2 豊かな人間性と実践力の育成	(1) 学校行事の意義について学校全体で共有することで、「世のため、人のため」という言葉に凝縮される本校の全人教育を充実させる。 (2) 命の大切さを認識させ、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させるとともに、各種調査等から生徒の実態を把握し、教育活動を充実発展させる。 (3) 授業や特別活動等における交流、言語活動の充実をとおして人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する。							
3 教師としての資質・能力の向上	(1) 教師一人ひとりの言動が「隠れたカリキュラム」として修猷文化を醸成するという自覚を持ち、自ら進んで研究と修養に努め、教養を高める。 (2) 「語りの文化」を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め、共有化を図る。 (3) 健康の維持・増進を図り、幅広く知識と経験の習得に努め、専門性の向上を図る。							
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題				
教務部	教務課	1 修猷の不易と二学期制を活かし、生徒ひとりひとりの資質・能力を伸ばす。	(1) 授業や特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 (2) 評価の観点を整理し、考査以外の学習活動の評価法を検討する。	A A	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の実施準備、ICT機器の整備、オンライン環境等を機に、「主体的・対話的・深い学び」がより高いレベルで実現できるための教育内容を職員全体で構築していく。 コロナ禍においても「修猷総合カリキュラム」を通じた「全人教育」の実践していくための配慮と生徒への仕掛けを密に行っていく。 校内備品の使用方法・配置・整備を生徒主体で徹底していき、学習環境の向上のため有意義に活用していく。 コロナ対策等を考慮した上で、PTA活動・同窓会活動での、学校教育の充実・活性化を主眼とした行事の実施方法の工夫、見直し及び精選を行っていく。 規範意識とはどういうものか、生徒が主体的に考えることができる問題提起の仕方を考察、実践し、生徒自身が左記の環境づくりを自然と行える力を育てる。 生徒全員が生徒会に所属しているのだからという所属感を持たせる工夫を、教科、部活動、ホームルームなどの様々な場面で小さな投げかけをしていくこと。 教職員、保護者、専門機関との情報共有を迅速に行い、困り感のある生徒への対応を組織的に行っていく。 			
		2 通常業務の精度向上と効率化、教育活動への還元を図る。	(1) 担当者を中心に複数体制で業務に当たり、精度を向上させる。 (2) 生徒状況報告書の活用と学年・他分掌との連携により生徒把握と早期対応を行う。	A B				
		3 グランドデザイン、修猷総合カリキュラムの更新、および新学習指導要領にもとづくカリキュラム作成の推進	(1) グランドデザイン・総合カリキュラムを活用し、教育方針の共通理解を深める。 (2) 次期学習指導要領・大学入試制度を見据えた新教育課程を検討する。	A B				
	庶務課	1 円滑な教育活動のための校内の環境整備を充実させる。	(1) 校内全般の状況把握と備品管理を適宜行い、随時改善に努める。 (2) 生徒会庶務委員会活動をより活性化し、生徒が教室整備等に主体的に関わるようにする。	A B				
		2 儀式的行事を円滑に企画運営する。	(1) 儀式的行事の計画立案に早期に取り組み、円滑な儀式運営に寄与する。	A				
		3 P T A・同窓会との連携の維持・発展に努め、教育活動の充実・発展につなげる。	(1) P T A・同窓会組織との連絡調整を適切に行う。 (2) 広報活動を充実させ、P T A・同窓会の運営が円滑に行われるようにする。	A B				
生徒部	生徒支援課	1 自律して行動することの重要性を理解させ、主体的に行動し自己責任を果たす生徒を育成する。	(1) 全教職員が共通理解・認識のもと生徒の内面的自覚を促し、基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 規範意識育成について継続的な指導を行い、安心・安全に生活が出来る環境づくりを行う。 (3) 防災教育・安全教育等により、安全意識と危機管理能力を向上させる。	B A A				
		2 生徒による自治的・協働的な活動をとおして、豊かな人間性とリーダーシップ・フォロワーシップを育成する。	(1) 学校行事の意義を職員間で共有し、学校全体で生徒の主体的な活動を支援する。 (2) 誰もがリーダーシップを発揮できる環境づくりを行い、豊かな人間性と想像力、実践力を育成する。 (3) 命の大切さを認識させるとともに、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させる。	B A B				
		3 生徒の現状に即した支援を充実させることにより、社会の変化や生徒の実態に対応できる体制の確立を図る。	(1) 長期欠席等に関しては、情報の共有、早期対応に努め、外部専門機関を積極的に活用する。 (2) いじめ等の未然防止・早期発見に努め、個別の事案については組織的・継続的に取り組む。 (3) 校外の研修会に積極的に参加し、情報を共有することで、指導効果を向上させる。	A A B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
生徒部	文化・体育課	1 部活動を通して、基本的な生活習慣を確立し、文武両道を心がけさせることで、「たくましく生きる力」を持った心身共に健康な生徒を育成する。	(1) 効率的に部活動の時間が確保できるよう各教科、学年との連携を密にする。	A	A	部活動においては、各部の活躍のための支援をしっかり継続していくとともに、学校全体を引っ張っていきえるスーパーリーダーを育成していく必要がある。大運動会や大文化祭については、コロナ禍で多くの制約のなか、様々な工夫を凝らしながらやり遂げることができた。これらの工夫の中には今までに気づけなかった視点もあり、新しく取り組んだことを、新しい文化としてどのように生かしていけるかを考えていくことが必要である。また、今年できなかったことを今後継承していくための工夫を考える必要がある。
		2 感動ある、感動できる『大運動会』を目指す中で、生徒の自治的・協働的な活動と、スーパーリーダーを育成する。	(1) リーダーとの事前指導等を徹底し、生徒の主体的活動を細部にわたり支援していく。	A		
		3 『大文化祭』を当該学年の集大成と位置づけ、学校行事の運営力・自浄力の育成を図るとともに、新たな発想を取り入れた修猷文化の発信を目指す。	(1) 自治的活動を通して、リーダーシップを育成し自浄作用を促す。 (2) 折衝・企画検討会を充実させ、質の高い発表となるよう支援する。 (3) 早い段階から部顧問・学年と連携し、適切な指導を通して、準備活動を支援していく。	A A B		
進路部	進路支援課	1 進路行事を通して進路情報を発信し、高い志を醸成する。	(1) 進路の手引きや進路説明会等を通して、進路に対する意識を高め、高い志を養う。	A	A	大学入学共通テスト（新テスト）の第1回目実施を受け、問題傾向、他校を含めた受験生の得点状況などを分析し、進路説明会等で保護者・生徒へ正確な情報を提示しつつ、効果的な指導のための準備を行わなければならない。また、令和4年度からの新カリキュラム導入に向けて、3年度の補習・朝課外をどのように実施すべきか、実施形態等を早急に検討する必要がある。
		2 テスト・模試の結果分析やデータの蓄積を行い、より良い進路支援へと繋げる。	(1) 実力テスト・修猷模試・外部模試を十分に活用し、進路目標を構築させる。 (2) 進路環境の変化に対応した、補習、課外、模試等の内容・枠組みを研究する。	A B		
		3 他の部や学年と密接に連携をとりキャリア教育の推進を図る。	(1) 卒業生キャリアセミナー、出前授業等を通して、キャリアデザインを意識させる。 (2) 卒業生体験発表会、東大講演会等の講演会を催し、進路意識の向上に繋げる。	B B		
広報課	1 本校の魅力を、第6学区小中学校の児童・生徒・保護者のもとより全国に発信し、本校の社会的認知度を高める。 2 小学生保護者説明会、第6学区公立高校説明会、修猷フェストの企画を更に充実させる。 3 地域や小・中学校、および進学塾との直接的な連携を重視し、相互の信頼関係の構築に努める。	(1) 学校案内パンフレットなどを通じて、生徒保護者のニーズに応える情報を提供する。 (2) HPの「修猷生の一年」の更新を迅速に行う。	A A	A	コロナ禍にあって多くの行事が中止となった現状を受け、コロナ対策と効果的な広報の両立、とりわけ小学生保護者説明会、修猷フェスト等「顔の見える広報活動」の再検討と充実が課題である。本年度は代替としてHP上での情報掲示ができたが、動画の質の向上などの課題は残されている。効果的な情報発信を行うために、分掌を越えた協力体制も必要である。	
		(1) 本校の教育理念、教育体制および生徒の姿を来場者に伝え、本校の魅力を発信する。 (2) 生徒部および生徒会執行部との連携を深め、より良い協力体制を確立する。	B A			
		(1) 学区内の中学校を年2回訪問し、ニーズに応える資料提供と情報交換を行う。 (2) 本校の公開行事についての情報を紙ベースで早期に提供し、集客力を高める。	A B			
教養部	研究支援課	1 「確かな学力」を育成する授業のための教科研修を実施する。	(1) 授業の充実資する研鑽の機会として、研究授業、相互授業参観等を活用する。 (2) 「年間聴講制度」の円滑な運営と成果の共有に努める。	A A	A	臨時休校後のオンライン授業を含め、新しい教育環境の活用に対する様々な経験を、次年度以降の教育活動の充実につなげるべく、研修の機会を検討したい。総合的な探究の時間の時間については、生徒の主体的な活動の要素を拡大している課題研究をさらに充実させるとともに、本年度、コロナ禍によって中止にせざるを得なかったいくつかのプログラムを、3年間を通じた教育計画の中に位置づけ直すなど、全体の再構成が最も大きな課題である。
		2 教師の資質・能力の向上に繋がる職員研修の企画運営を推進する。	(1) 生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修、人権研修を企画し、実施する。 (2) 研究紀要や校誌等の刊行について、編集過程を含めた充実と努め、活用を推進する。	A A		
		3 教育研究活動の充実を図る。	(1) 本校の教育活動を俯瞰するための教育研究・調査を、継続的に実施する。 (2) 各教科・各分掌等による教育研究を支援するという分掌機能を充実させる。	A B		
		4 総合的な〔学習・探究〕の時間の運営支援を実施する。	(1) 自主的・協働的な活動を通じた自己教育力・相互教育力育成の機会とする。 (2) 出前授業・卒業生キャリアセミナー等における外部との連携を充実させる。	A B		
図書課	1 読書習慣を通し感性や論理的思考力・表現力等豊かな人間性を培う。 2 生徒図書委員の自主的活動を支援し、図書館の活動の活性化を図る。 3 情報・メディアセンターとしての図書館機能を充実させ、メディアリテラシーの向上に資する。	(1) 朝読書を軸とする充実した読書活動を、学校全体の取り組みとして推進する。 (2) 図書館ORや各種「推薦本」の取り組み等、学年・教科・分掌と適切に連携する。	A A	A	コロナ禍のため修猷資料館の一般公開や生徒図書委員会の対外的な交流・研修が中止を余儀なくされるなか、校内における読書推進活動では、クラス読書の分かち合い企画などの新たな試みを取り入れて工夫することができた。今年度の成果を受け、次年度も感染予防に留意しつつ、集団生活をベースとする学校ならではの繋がりが共感性を大切にして、様々な読書への働きかけを柔軟に継続していくことが必要である。	
		(1) 生徒図書委員による日々の業務の遂行、及び他校との交流活動を支援する。 (2) 朝読書・菁莪祭・図書館報・公報スペースを一層充実させる。	B A			
		(1) 各教科と連携し授業関連の情報・図書の提供を充実させる。 (2) 図書館のマルチメディア化と学校発行文書の電子化・図書館での保存を推進する。 (3) 菁莪記念館(1F・3F)の視聴覚設備や修猷資料館について適切な管理運営を行う。	A B B			